

古
道大意
上

一	葛
乙	部
三	門
六	番
二	分
	冊

法
部
今
之
物
氏
係
管

一
二
九
八
千
枚

明治 倫 知 館 印
明治 政


古道大意はし加き

古き此古道大意と云ふ書ハも我ガ神あらふ
學ビのねや伊吹のを此平大人の其御許子侍
らふ人より古道此趣を講き聞せあふを承
賜される教子あちの打徳を筆記しするもの
る御字。後予師の見ゆして。此を繕くさそ書
取ふれと褒めぬへる物あり。抑あの講釋本よ。

常言もしも宜へき。此を披き見む。沛口披
から宜るふを。満の何と直ふ。受賜ハせる如思ハ
きて。いと懇よしを親く。眞の道ハ慈の明のイ
悟得らば。最もく有がごとく。尊た沛本ハ
亦む有らる。拙く成ぢ亦き俊秀らら。稱へ申
さ幸は。中てふ免し畏し。然れば其講説を。
閑と得ざる。遠ま境に住居る人こそ。まくと

かしき堂寫し傳字を。辨え讀むも多このれを。
今しかく。あの沛道とふ忠誠人あちれ。年々
子姉え行て。寫し借ある暇あく。はと寫し
謬ても出来めきは。まゐび鍍胤君に議り申
志て。遠近人の勞たいらまて。容易く拜み
讀んく。千方此本と本城も成してむと。堅
本此板に彫あして。伊吹の屋に文庫に納め

まゐらせし。かくせば此の清書也。千世も八
千世も朽る事と無く。失儀事なく。継ぐ
弘まらざる。その正道也。以やまはく不榮え行
らむ事哉。あれ樂しむるも。何あ歡ばしき
かも。この言は也。

秋田人 小澤三折俊秀 

古道大意の由縁

人宅志ては。人の道ミチを知らず。交マユは有アらざらん。人此道ミチを
知シらば。其父母先祖を知ル。國體を辨ワカへ。交マユは有ア
らざらん。其國體を志スる。小は。其太元開闢の由縁を志ス
らば。有アらば。君臣ミコ等ト。彝倫の敘セ。交マユは有アらざらん。天下テンカ哉
經綸キョウリンを志スる。道ミチ。小は。此コ。起原キゲン也。其太元開闢
の由縁を知ル。我ガ。神典を拜讀ハイジュクせ。有アらば。有アらば。
神典とは。日本紀古事記をはじめ。其コ。皇朝の古書コト哉。云ふ。此コ。古書コト哉。讀ヨミて。道ミチを辨ワカふる。哉。古道

學と云ふ。謂ある古の道を執て。今れ有戎御妻とは是
あり。斯て今世小行ハ。道と云ふ道の中。殊小弘
はまるは。儒道佛道あり。其れ二の道。とも小其を。外
國よと渡れるが。先漢土小を。陶堯。虞舜と云し。國主
の時。授禪といふ事。戎爲て。父子れ親愛廢。篡奪の
所爲。其よと始まれ。殷湯。周武とといふ。首長が世
小出ては。放伐を專小して。君臣の義理絶ぬ。其の親愛
義理廢絶の上は。大道立。經世れ細紀。則と依所なし。
偶り取べき物あるは。小事れ。是かの國代。長久せ

さる所以あり。は。佛道の趣意は。上下尊卑れ分無く。
衣食住。離れ。子孫断滅を好む道あるを。人あるもの
曾て歸依すべき事。非。此餘の道も。其の二。準
へ。各。一區。小徑。事。辨。抑。の
國。道。於。は。開闢以來。
帝位。一。立。て。君臣。等。万世。動。事。倫。の。敘。
ち。自然。小具。れ。但し。
神。其。性。賦。して。生。給。へ。是。以。て
治國。平。天下。道。事實。の上。昭。く。此。我。が

神國の玄妙ウツクシにして。彼戎夷カウは小徑コウと。豈アヒ同年トシに談カあら
むや。然しかれを我われが御道ミチは。宇宙ウツウ第一ダイイチの正道テイダウ。万國マンクニの君師クニシ
あれむ。六合リクゴクに内ウチ小含コウ養ヤウせらゆくをれ。誰タレうははまき小
寄ヨららぬるほき。此コノを知ららざるハ不明メイメイなり。知りて傳ツへさ
ゆを不實フジツ也。學者ガクあれを思おもえらぬる可りむや。是コノ古道コウダウに
講説コウゼツなくは有あべかららぬる所以あり。謹ユヱニて記キす。

文政七年甲申正月

平田鐵胤

古道大意上卷

平田篤胤先生講談 門人等筆記

今イマコノニ演説エンゼツイタシテス所トコロハ。古道コウダウノ大意ダイイテ。先マツソノ
説セツク所トコロハ。此方コノカタノ學風ガクフウヲ古學コガクト申マツスユヱニ。マタ其ソノ
古學コガクノ源ヒトシ及ツキビソレテ開ヒラキ初ハジメ。人ヒトニヲシレヘ。世ヨリニ弘ヒロメ
ラレタル人ヒトノ傳ツタヘノ大略ダイリョク。マタ其ソノヨリ本ホトツク所トコロ。マタ
神代カミヨノアラマシレ。神カミノ御德ミチノチカラノ有アリカタキ所以ユヱニ。マタ御國ミツクニ
ノ神國カミクニナル謂イハレ。マタ賤シラノ男ヲ我われニ至イタルニテモ。神カミノ御
末スエニ相違アイハナキユヱニ。又マタ天地アメノチノ初發ハジメイハユル開關カウカンヨリ

致シテ恐レナカラ。御皇統ノ聯綿ト御榮エ遊ハサ
レテ。万國ニ竝ブ國ナク。物モ事モ万國ニ優レテヲル
事。又御國ノ人ハ。ソノ神國ナルヲ以テノ故ニ。自然ニ
シテ。正シキ眞ノ心ヲ具ヘテ居ル。其ヲ古ヨリ大和
心トモ。大和魂トモ申テアル。是ヲノ事ヲモアラマシ
申シ。マタ神代ノ神ノ御傳説。ソノ御所業トモハ。今
ノ凡人ノ心ヲ以テ是ヲ思ヘバ。甚靈ク。信ジ難ク思ハ
レル。其非事ヲ諭シ。右ノ事トモヲ申ス中ニ。眞道ノ
趣モ。オノツカラニ籠テアル。但シ神代ノアラマシ。及ビ

神ノ有カタキ所以ナトハ。實ニ廿日ヤ卅日。息モツカ
ズニ申シタレバトテ。中々以テ其御徳ノ廣ク尊ク妙
ナル謂ノ。ソリヤ。万分一モ演説イタシ盡サル。ヤウナ
事テハ無テム。其ヲ此ワツカ。二日カ三日ホドノ間ニ。
申サウト致ス。故ニ。訖ク思フ所カ。斯ヤウニカイ。摘
ニテ申テハ。却テ淺くト聞受ラル。方モ有ラウカト。
思ハレルナレ。比後追々演説イタス中ニ。カバカリ粗ク
モ。神代ノ事ヲ申テ置ネバ。分リカネル。トカ多イテム。
其ユエニ止。トヲ得ズ。搔ツマニテ。神ノ御代ノ沿革リヲ

言ハ、カケテ通ルヤウニ申スノテ、其故ニカノ世ニ誰モ
イフ。石戸隱ノコトモ申サネバ、大蛇退治ナドノ事モ申
サヌ。猶摠テノ精細ナル事トモハ、古傳説ノ純粹ナル
処ヲ撰置テ、別段ニ委ク演説イタス。其時ニ申スコト
シカレナセ又其委キ訣ヲモ此処テ説ヌコトシヤト思ハレ
人モ有ウカナレ。是ニハ訣ガアル。其ワケト云ハ、一躰此
方ノ説ク古道ノ趣ハ、謂ユル天下ノ大道テ、則人ノ
道デアアル故ニ。實ニハ此大御國ノ人タル者ハ、学バズ
トモ、其大意クラ平ハ心得居ベキハズノコト也。然レバ

其演説ヲイタスニ、誰レノ人モ耳ニ入カタキハスハナ
キコナレ。凡今ノ世中一般ニ、儒道佛道ヲ始メ、其外
モ種々ノ道ガ弘ガツテ、各々其下ノ心ニ、或ハ佛道ニ
依ルトカ、儒道ニヨルトカ、扱ハ俗ニ謂ユル神道、又ハ
道学トカ、又或ハ心学ナト云フコトテ居リヲ付オイタリ。
又サヤウニ居リヲ付ルト云フ程ノコトテ無クテモ、何ト
ナク右ヤウノ説トモヲ見馴キ、ナレ言馴テ何ツカツ
下心ノナイト云ハ無ク、又必カフレテ居ヌ人ト云フハ有マ
セシ其故ニ始メヨリ、突カケニ此方ノ專トスル古道ヲ、

委ク演説イタス時ハトカク彼元ヨリ世ノ人ノ見ナレ
聞馴イヒナレテ居ル種ノ事トモカ障リト成テトツ
クリト合点ノユク程眞ノ意味合ヲ悟リ得ズ聞トリ
カネル故ニ心得違ヒカ出来テ太ジキ事ノ紛レト成ル
惟マギレト成ハカリテナク其元ヨリ心ニ蓄ヘタル事ト
此方ノ説ク趣カ違テアルニ依テ是ヲ信セス信セヌ
ニ依テ聞ホシモセス其少カバカリ聞ハツクタル事共ヲ
固ヨリ信セヌマニ聞違ヘ其キ違ヘタラクナラフ其
ナカラニ尾鱗ヲ添テ外へ行テ彼此ト謗リナントモスル

モノテ世間ヲ見ルニサヤウノ人がヨク有モノテム勿論
是ハ元ヨリ大意ノ故ヨク聞レタ処カ實ニ古道学
ノ万分一デモナイ其万分一ノ片ハシラ一席二席キイ
タクラ平テハ何氏言ヘルコトハ無イ譬ヘバ爰ニ大キナル
牛ガ一足アル然ルニ盲タル人ハ見ルコト能ハズ只其尻尾
バカリヲ拵テ見テソノ全躰ヲナテモ致サズ牛ハ小キ獸
ジヤト思ツテ卑メルヤウナモノテム但シ其レキノ謗リハ
物ノ數トモ致サヌコトナレバ此方ハソレニイタレテモ此我
説ク道ハオシツケ申スト分リニスカ良クモ此世ノ始メ

ヨリ。今ノ現ノ神ノ御事實テ。殊ニハ古ノ天皇命ノ
廣ク厚キ思召テ。嚴重ニオモシレテ。御傳ヘアソバシ
タルトモヲ申ス。故サヤウニ粗忽テ有テハ。其天
津神國津神及古ノ天皇命ノ後世ヲ思召ス。
厚キ御心ニ對シ奉リテ。此方何トモ恐多キコトシヤ
ニ依テ先ソノ舊來ノ聞ナレ見馴テ居ル。正實ノ
有カタキ又其ヒカコトヲアテク。論辨イタシテ。人々ノ
心ニ扱ハ佛道ニモ有レ。儒道ニモアレ。心法悟道マタハ俗
ノ神道ニモアレ。先カヤウナ物ト云コトヲ心ニトメ。居リヲ

付置テ。扱其魂ノ居ツタ処テ。古道ノ奥意ヲ古傳説ニ
依テ。トツクリト演説致セバ。其時コソ此方ノトク処ニ。
疑ヒハ無イコトアル。扱コソ爰テハ彼。ナマク聞テ心
得違ヒ。又ハ聞ハツリヲ人ニ語ツテ。謗ルヤウナコトハ
アル。イト思テノコトアル。又サウナイ処ガ。トカク何ノ
道何ノ學ビ事テモ。始メノウチハ倦ノクルガ。世ノ常
ノ人情ジヤニ依テ。長イコトノ内ニ退屈ガ有テハ。説ミ
スル此方モムタ骨ヲリ。又聞ク人々モ詮ナイコトテ。
其ユエ次ニ言フコトヲ替テ。倦ノコヌヤウニ。其事ヲ

シタレク。初学ノ人々ノ耳ニ入レ置テ。言ハ、面白ミヲ
付ケ下^{シタゾシラ}游ヘヲシテ。猶トツクリト眞ノ道ノ精密ト。委
ク細ヤカナル処ニテヲ。申タイ聞セタイト云。本意ヲ
モコメテ。思ヒ付タル。此古道大意ノ演説テム。トハ
申スモノハ。此席ニ説ク処トテモ。サラク猥ガハレク。
穿鑿^{センヤク}モシツメヌ事ヲ申ノテハナイテ。誰レノ人モ先
早く心得ベキ肝要ナルトモヲ。取集メ綴リ合せて申
ノテアルカラ。是ハ長ケナク。下イ^{ヒク}トヲ言ト思ハストツクト
勘辨ヲ加ヘテ。聞ルヤウニ致シタイトテム。扱又別段ニ

申ス^コガ有ル。ソレハ世間ニ学問ト云ハ、一通リノヤウニ
キコエルナレ^ル。甚品^{シブシバ}クガ有テ。先此方ノオモト致ス。御
國ノ学問ニモ。細カニハカルト。セツハツニモ分ルテム。マツ
神ノ道ヲ第一トスル一派ガアリ。マタ歌学ト云テ。歌ノ
道ヲムネトスルガ有リ。又律令ノ学ト云フガ有リ。又伊
勢物語ヤ。源氏物語ヲオモト学フ者ガアリ。又歴史
ノ学ト云テ。御代々ノ事ヲセンサクスルガ有リ。マタ古
實諸禮ノ学問ガ一ツアリ。其中ニモ俗ニ云フ。神道ト
云ニ又諸流ガアリ。歌学ト云ニモ二三流アリ。ザツト御

國ノ事ヲ學ブバカリモ。此通りニ派ガ分ルテ也。又儒者ノ學フ漢學ト云ニモ。同ク御國ノ學問クラ平ニ派ガ分ル。又佛學。是ハ諸宗ガ有テ。各ソノ立カタガ違フ故ニ。學ビ方モチガフハ本ヨリノ一。又佛法カラ流レ出タル心學ナド、云。チヨコザイナ學ビラ爲テ。人ニ勸メル者モ有リ。是ラノ訣ハ別段ニ佛道ノ大意ヲトク。阿蘭陀ノ學ビ。又天文地理ノ學ビ。又蘭學ト云テ。阿ト種々差別ガアリ。ナント此通り。學問ハ色々アルソノ

中ニ何ノ學問ガイツチ大キイゾト云ニ。チト自分勝手ノヤウナレ也。御國スナハチ我國ノ學問ホト大イ物ハナイデム。ナセト云ニ。先近ク儒學ト佛學トノ上テ申サバ。儒者ハ先四書五經トカ。十三經トカイフ類ノ書物ヲヨム。一ヲ覺エ。又左國史漢ト云テ。左傳ト云モノ。國語ト云モノ。史記ト云モノ。漢書トイフ物ナドヲ粗く讀テ。サテ漢文ヲ綴クル方ヲオホエ。其フタニノ言クサニ。詩ヲ作ルコトデモ覺エルト。モウ儒者ト云テ通ラレルテ。是レキノ書物ヲヨシテ。是式ノ一ヲ覺ルニサシモ難イコトハアリヤ

致サニテム。大カタ世間ノ儒者ガ皆コノ位ナモノテム。
サテ其儒者ニ比ベテハ。出家ノ方カヨッホト廣イ。ナゼ
ト云ニ己ガ是非ヨメネバナラヌト極メタル。俗ニイフ經
文ガ五千餘卷。馬ニ付タナラバ七八駄アラウ。其ヲ皆
ハ讀メズ。十分一ヲヨシダ所ガサツト儒者ガオモトヨメ
ネバナラヌ書物ノ一倍モ有テム。其ノミナラス儒者ハ
佛書ヲヨミンデモ。事ガ缺ヌニ依テトニト讀ズ。タメ
サカ佛書ヲヨム儒者モアレド。ソリヤ百人ニ一人モ
ナイ。僧徒ハ其ト事カハリ。儒者ノオモト見ル書物ヲバ。

子供ノ時カラ。文字ヲ知ル爲ニヨニテオク。又詩モ漢
文モ。儒者ト同ジヤウニ作りモスル。爰テ僧徒ノ学
問ハ儒者ヨリハ博イテム。又御國ノ学問ガイツチ
ヒロイト云故ハ右申ス通り儒学佛学ヲ始メ種々
サレクノ学問ガ有テ其道ノコト事トカ盡ク
御國ノ学ビ事ニ混雜シテ譬言ハ彼ハ紘九野也
水天漢ノ流注カスト云フナレト云フ如ク。有ユル学
事混雜シテ大海へ諸ノ川々ヨリ落テ來ル水ノ
ミレツテ平ルヤウナモノテム。其通り入交ツテアル故ニ。

人ノ心モ多ク其ニ移リ孰レヲ是トモイヅレヲ非トモ
別チカネテ言ハバマコツイテ居ルコトガ多クアル夫故ニ
ソノ混雜ヲ具ニ分ネバ眞道ノ有カタキ所モ顯レズ
其コシサツヲヨリ分テ眞ノ道ノ害トナルコトヲイヒ顯
サウトスルニ付テハヨク先ノ事ヲ知ラネバ言ヘズ彼
唐人蘇子由ト云者ノ申タル如ク善與人言者因
其人止言而爲止言則天下止辨者服矣云々
ト申タル如ク此方ノ事バカリ言テハイカस्ताトハ僧
徒ヲ諭スニハ佛書テ言ラトキウノ音モ出ズ儒者ヲ

サトスニハ儒書テ論ズレバ猫ニ逐レタ鼠ノヤウニ畏
マル然レバ御國ノ純粹ト正キ道ヲ得ヤウトスルニハ
此ニ心得ナクテハ叶ハヌコトテム殊ニモロクノ學問ノ
道タトヒ外國ノ事ニシロ御國人ガ學ブカラハ其
ヨキコトヲ撰ニテ御國ノ用ニセシトノコトテムサスレバ
實ハ漢土ハ勿論天竺阿蘭陀ノ學問ヲモ凡テ御
國學ト云テモ違ハヌ程ノコト則コレガ御國人ニシ
テ外國ノ事ヲ學ブ者ノ心得テム扱ワカ先師タチ
以來此方モ及バスナカラ此通り氣ヲ付テ人ニモ演

説イタスカラハ何事モ此學問ノ本意ニ背カヌヤウ
背カヌヤウニト吟味ニ吟味ヲ重ネ古人先達ノ公
論明説ニ原ツキ其説ヲ集メツツテ演説ハ致ス
モノ、廣キコノ中ニハ考ヘ落シ言タガヒモアラウト
存ズルナセナレハ篤胤素ヨリ不敏ノ性質ニテ中
以テ世ニ多カル事ノ五分一モ知り得ラレルコトハ
ナイ故考ヘ脱シノ有ルコトアラウト其ハ常ニ心ツカ
ヒニ思ヒ居ルコトニ仍テ今聞ル方々ノ中門人ニ
限ラズイヤ其ハサウテハ有マイト思ハレル衆ガアル

ナラバ其趣ヲ言テ給ハルガヨイ其意見ガ實ニ理ニ
當ラバ速ニ改メヤウテム又不審ナコトモ問レルヤウニ
致シタイモノテム又神ノ御上ナドヲ申スニ至テハトシ
ト世間普通ノ學者等ノ申ストハ違ッテアルニ依テ
サテ此ハ今マテ思フタトハ相違ナコトシヤ鬼神ハニ
氣ノ良能鬼神ハ造化ノ迹トコソ聞ラルニ平田ノ
説口ニテハ信シ難イコトシヤト思フヤウナ事モ有ウ
カテム是ハ此方モ本オホエノ有タコトシ其モ更ニ無
理トハ存セヌカラサヤウナ事モ有ノ終ニ御不審ヲ承

ハリタイテム。唐人モ疑ハレキハ問ニテヲ思フ也。又此ヲ如何コレヲイカント言サル者ハ此ヲ如何也スルヲ無シト云ヒ。又カノ鼓ヤ鐘ナドモ打カツカネバ。鳴モイタサヌヤウナモノジヤト。古人モ言テ。問答ノ譬言ニ致シタガ。是ハ實ニサウテム。何トゾ今日ヲ始メテ。往クモ捨オカス。神ノ有難イ処。道ノ精密ナル処マテ。学ビ付ヨリツキ。聞ホサウト。志ヲ振起サレニスルヤウニ致タイ物テム。但レ是ハ今日始メテ。此席へ出ラレタル方クニバカリ申スコテム。

扱マツ第一ニ申テ置ネバナラヌ事ハ。此方ノ学風ヲ古学ト云ヒ。学フ道ヲ古道ト申ス故ハ。古ハ儒佛ノ道。イマダ御國へ渡リ來ラサル以前ノ。純粹ナル古ノ意ト。古ノ言トヲ以テ。天地ノ初ヨリノ事實ヲ。スナホニ説考ヘソノ事實ノ上ニ。眞ノ道ノ具ツテアル事ヲ。明ラムル学問テアル故ニ。古道学ト申ステム。抑コノ学風ノ由テ來ル其始メハ。東照大神君ソノ系ロヲ開カセラレ。公子尾張ノ源敬公ソノ御遺意ヲ紹セラレ。サテ水戸中納言先圀卿。大キニ興起アラ

セラレタコトデム。此君ノ世ニ殊^{スグ}レテ御坐ルコトハ。世ノ人ノ能ク存^{ヨク}レ居ルコトデ。則^{スナハチ}世ニ水戸ノ黃門様ト申ハ。此御方ノコトデム。此君ガ世中ニ唯^{タダ}ク唐ノ學問バカリ行ハレテ。御國ノ古キ御代ノ事ナトハ。心トスル者ノナキコトヲ御歎^{ナク}キナサレ。第一ニハ。禁裡ヲ殊^{コト}ノ外御尊敬アラセラレ。數ノ學者ヲ御抱^かヘアソバレ。先世ニ有^アリトアル古書ヲ御集^アナサレ。又諸國ノ神社佛閣及^ヨヒ在^アルニ至ルコトデ。アマタノ人ヲ分遣^{ワカ}ハサレテ。イサ、カ一枚ニヒラニ足ラヌ物モ。古キ書物ヲバ。悉^{コトク}ク御集メナサレ。夫ヲ明細ニ御

吟味有^アテ。神武天皇ノ御代ヨリ。後小松天皇ノ御代ニテ。御代八百代。年數二千年アリノ間ノ事ヲ。具ニ御撰^アヒナサセラレ。大日本史ト云歴史ヲ御作^アナサレ。又神道集成ト云ヲモ御撰^アナサレ。又古書ハモトヨリ。堂上方ノ世々ノ御記録ヲ始メ。數百部ノ書物ノ中ヨリ。朝廷ノ御禮儀ニ関^アルコトモヲ。御類聚^アナサレテ。五百卷餘ノ書トナサレタデム。此御大業ノ御入用トシテ。御高三十五方石ノ内。十方石ヲ分^アカレミレテ。誠ニ數十年ノ御辛勞^アテ。終ニ御成就^アナサレ。扱朝廷ニ奉^アラレタル処ガ。

朝廷ニモ御感斜ナラス思召レ。右五百卷ノ御書物
ヲバ。禮儀類典ト云題号ヲ。御ツケ下サレタテム。又其
コ。難波ニ契沖トイフ人カ有テ。是ハ故有テ眞言ノ
僧トハ成タナレ。厚ク御國ノ古ヲ信シ學ニテ。中
頃ヨリ乱レ來リシ假名遣ヒヲ。古書ノ古言ヲ證據
トシテ是ヲ正シ。和字正濫抄ト云書ヲ著シ。其外イロ
イロ發明ノ書物ヲ作テ。其名高ク。光圀卿ノ御耳ニ
入り。殊ノ外感シ思シ召シ。度々御使者ヲ遣サレ。御逢
ナサレタキ由ヲ。仰せ入ラレタナレ。契沖ハ固ク御辭退

申テ罷出ナシタテム。所カ光圀卿ニハ甚御慕ヒナサ
レテ。安藤爲章トイフ。御國學ニ志ノ厚キ御家臣
ヲ。契沖ノ門人ニ遣ハサレ。且万葉集ハ。殊ノ外古キ歌
集テ。歌ノミナラス。博ク古ヲ考ヘルノ助トナルベキ。結
構ナル書物ナレ。其頃マテ世ニアル所ノ注解。何レモ宜
クナイニ依テ。ヨク古ニ叶ベキ注ヲ仕ルベキ由。御頼ミナサレ
タテム。契沖畏マツテ。是ニ於テ。万葉集ノ代匠記ト
云フヲ撰ニテ。差上マシタ。此方ノ万葉學ハ。是ヨリ始
マッタ。テ。光圀卿ソレヲ御覽ナサレタル所カ。今マテ

ノ有^{アラ}ユル注釋トハ事カハリ。盡ク古言古意ヲ尋^{タテ}ネテ
是ヲ記シ。甚^{ハヤシク}スクレタル物ユエニ。大キニ御悅^{ヨロコビ}ビナサレテ。
白金千兩。絹三千匹ヲ下サレタテム。契沖ソノ賜物ヲ
更ニ蓄^{ツク}ヘス。盡ク貧窮ノ者ニ與^{ユク}ヘラレタト云フテ。又
右ノ代匠記ヲ作ルトテ。夥^{オホク}レク古書ヲ集メ考^{カガミ}タル時。
ソノ餘カヲ以テ。古今集ヘモ注ヲ下^{クダ}レテ。是ヲバ餘枝
抄ト名ヲ付タテム。是以テ其時分マデ有タル所ノ注
解トハ。雲泥ノ違^{タガ}ヒニテ。誠ニ結構ナモノテム。叔契沖ハ。
元祿十四年正月廿五日ニ。年ハ六十三歳テ身マカラレ

タテム。其著^{アス}シタル書物凡^{スベ}テ廿五部。卷數百廿卷餘
モアルテム。此契沖ニ追^{オヒ}スカツテ。荷田宿禰東麻呂翁。俗
名ヲ羽倉齋宮ト云人が出ラレテ。大ニ御國ノ學問ヲ
勵^いミ弘^{ひろ}メラレテ。四方ニ其名高^{たか}ク。既ニ御國學ノ學校ヲ
京都ヘ建^たウトテ。公ノ御免ヲ受^うラレ。其地ヲバ東山ニシ
ツラヘヤウト爲^なラレタル所ガ。其事果^はサス。病ニ依^よテ身
マカラレタテム。此翁著述ノ書數十部。卷數百卷餘リ
有タル由ナレ。思^{おも}フ旨アルトテ。末期ニ多ク焚^や捨^すラレタ
ルニ依^よテ。今總ニ遺^{のこ}リタルモノ五六部。數卷ナラテハ有ル

コトナク。然レモ我古道学ノ道紀ヲ立ラレタルハ此人
デム。此次ガ賀茂縣主眞淵翁。通名ヲ岡部衛士ト
云フ人ガ出ラレテ。家ノ号ヲ縣居ト付ラレタルニ依テ。
縣居ノ大人。マタ縣居ノ公翁ナド、モ申ステム。扱コノ翁。
荷田大人ノ門人トナリ。其本志ヲ紹テ勤学イタサレ
タテム。其遠ツ祖ハ神皇産靈神ノ御孫、鴨建角見
命ト申シテ。八咫鳥ト化テ。神武天皇ヲ導キ奉ラレタ
ル神テ。縣居翁ハ此神ノ子孫テム。代々遠江國濱松
莊岡部ノ郷ニ在ル。賀茂ノ新宮ヲ齋カレタル。正レキ家

柄テム。眞淵ノ公翁ヨリ五世ノ祖タル。政定ト申ス人ハ引
馬原ノ御軍ニ大功ガ有テ。東照宮ヨリ。來國行ガ打
タル刀ト丸龍ノ具足トヲ賜ハツタ程ノコテム。扱コノ
眞淵ノ公翁ハ。其師東麻呂翁ノ上ヲ。今一段上ツテ。
ナホ淡ク考ヘ。始メテ古ヘノ道ヲ明カニ得ニトスルニハ。
漢意佛意ヲ清ク捨ハテ。眞ノ処ハ得ガタク。歌ヲ
詠ムモ。古ノ言ヲ解クモ。皆神代ノ道ヲ知ベキ便ナル由
ヲ。懇ニトキ誨サレ。扱遂ニ田安ノ殿ニ召出サレ。御國学
ノ御師範ヲ申上ラレタテム。其門人ニモ勝レタル人ガ

多ク。藤原、宇万伎、楫取、魚彦、夕近頃ニテモ世ニ居
タリシ加藤、千蔭、村田、春海ナドモ、皆此翁ノ弟子デム。
扱コノ翁ハ、明和六年十月晦日ニ、行年七十三ニテ身
マカラレタデム。其著サレタル書物が四十九部、卷數ガ
百卷チカク有ルテム。此次ハ即拙者トモガ師ト仰ク。
本居先生平阿曾美宣長ノ公羽テ。始メハ醫ヲ業トセ
ラレタルニ依テ、本居舜庵ト稱レ、シタカ。後ニ紀伊國
中納言殿ニ召出サレ、シテ、中衛ト改メラレタデム。其
先祖ハ桓武天皇ノ御裔、池、大納言頼盛卿六代ノ

後胤。本居縣判官平建郷ト申シタ人ノ末ニテ、伊勢
國松阪ノ人テ。家ノ号ヲ鈴屋ト付ラレタルニ依テ、世
ニ鈴屋ノ大人トモ、鈴屋ノ翁トモ申ステム。扱コノ
翁ノ學問ノ太シキヲハ、世ニ類ナク、ソレハ其著サレ
タル書トモヲ讀明ラムレバ、能ク知レルヲテ、申ニテハ無
レ氏。其始メハ漢ノ學問ヲ淡ク學バレテ、夫ヨリ御國ノ
學ビニ移リ、縣居大人ニ從テ、其大志ヲ受繼レ、學問
ノ道ニ於テハ、古ヨリ類ヒナキ大功ヲ立ラレタデム。其
御心緒ノ事ヲカイ摘ニテ申サバ、先其著サレタルウヒ

山踏ト云フ書ニ言レタル趣ハ人トシテ人ノ眞ノ道ハ
ドウレタ物ゾト云フヲ。知ラスニ居ベキコトハナイ。学
問ノ志ナキ者ハソリヤドウモ爲方ハ無レモカリソメ
ニモ其志ガアルナラバ同レクハ眞ノ道ノ爲ニカヲ用
ベキコト。然ルニ道ノ事ヲバナホサリニ差オイテ。唯
末ノ事ニバカリ拘ツラツテ居ルト云フハソリヤ学問
スル者ノ本意テハナイ。ト言ハレ。又学問ハ始ヨリ其
志ヲ高ク大キニ立テ。其奥ノ所マテ。極メ盡サズハ止
マイト。堅ク思ヒコムガヨイ。此志ガ弱クテハ。オノツカラ

倦怠ルコトガ出ルモノ。トモ言レシタテム。此通り
人ニモ教ヘラル、程ノコト故ニ。自分テハ實ニ此トホリ
イタサレタテム。是モ亦其著サレタル書トモヲ讀メバ。
能分リマステム。又ソノ心ノ公ニシテ。私ナキコトハ弟子
中へ誠メラレタル詞ニ。我ニ随ツテ物学ア輩ハ。我カ後
ニ又ヨキ考ヘノ出来タラニハ必クワカ説ニ泥マヌカ
ヨイ。我イヒ置タルコトニモ。違タルコト有ルヲバ。其違ツテ
アル故ヲ言テ。ヨキ考ヘヲ弘メヨ。一躰我カ人ヲ教フルハ。
道ヲ明カニセントテノ事ナレバ。トニモカクニモ。道ヲ明カニ

スルノガ。我ヲ用フルノジヤ。其ワケヲ思ハズシテ。イタツラ
ニ我ヲ尊ムハ。ソリヤ我カ心テハナイゾト。玉勝間ト云書ニ。
カイテ置レタテム。ミタ村田ノ橋彦ト云フ人ガ。同國白
子ノ人テ。翁ノ御門人ニ成タイト云テ。文通レタル其返
事ニ。オクラレタル翁ノ手紙ヲ所持イタシテ居ルガ。ソレニ
言ハレミレタニハ。皇朝ノ學問ニ於テハ。祕事口傳ナド
申スコトハ。露ホトモコレ無ク候。サヤウノ義ヲ申立候ハ。皆
邪道ニテ候。多ク道ヲ説聞せ候ガ本意ニ候ハ。門弟
ナラストテ。野生ニ於テハ。祕レ申候義サラクゴザナク候。

サリナカラ。皇朝ノ古道御執心ノ段御殊勝ノ御義。何
ヨリモ悦バシク存ジ候。ト云ヒオクラレタコトモ有マステム。
世間ノ歌學者。神道者ナド名ノル輩ガ。譬言ハハ歌學
者ナレバ。三木三鳥ノ傳ジヤノ。テニヨハノ傳ジヤノ。古
今集ト云フノ傳受ジヤノト云ヒ。又神道者流ノイフ。
天ノ浮橋ノ傳ジヤノ。土金ノ傳ジヤノト云フヲ言テ。
サワグケレヒ。コリヤ皆ソノ下心ニ。汚イ物ノ有テスルコト。
眞ノ公ナル學問ヲスル者ガ。ソナヲカレテ事ハセヌガ
ヨイテム。其ハ鈴屋ノ本居先生ハ。右ニ段々申ス通り。

同門佗門ノ差別ナク。知ラレタル程ハ惜ワムズニ傳ツクヘテ。
清ク明カニ。學問ノスチヲ立テ。教ヘラレタル事故ニ。
始メノ内ハ。カノ祕事口傳ヲ專モクトスル輩ニ。甚ハナク以テニクミレ
マシタナレト。終ニ其心ノ如ク世ニ弘セマリ。其門人帳ヲ見マ
スルニ。弟子ノナキ國ハ。六十六個國ノ内ニ。唯二個國ナラテ
ハナイ程ノコト。殊ニ享和元年ノ春上京致サレテ。四條ニ
舍テ居ラレタル砌ナドハ。公家ノ御曆カカタ。學問ヲ
公ニ心カケラル、御方ハ。翁ノ舍リヘ御尋タ有テ。御入門
ナサレ。世ニモ人ノ知テ居ル。中山大納言殿ヲ始メ參マラ

世富小路新三位殿。芝山中納言殿ナド。其外夥オホシク
有リマシタテム。既ニ其コロ御歌ノ宗匠ト有ラセラルハ。
日野一位資枝卿テスラ。御感心ノ餘リニ。其御孫。日
野中宮權大進殿ト申スヲ遣サレ。公羽ヲ師ト御賴タニ
ナサレテ。其始メテ入セラレタル時ノ御歌カ。和歌ノ浦
ニ行ヘヲタドル海士小船。今ヨリ君ヲ梶トタノニ。ト仰
ラレタテム。此意ヲ約メテ申サバ。和歌ノ浦ト云フ浦ニ。
行方ヲ跼シテ居ルアマノ小船ニ。御自分ヲ御准ササレテ。
大和歌ノ道ニタトツテ居ル某ナレヤ程ニ。今ヨリ君ヲ師

匠ト御頼ニ申スト仰ラレタノテム。此外ニモ御尋ナサ
レタル御カタくか。各コノ意バヘノ御歌ヲ御讀ナサレ
何レモ公羽ヲサシテ。本居先生。鈴屋公羽。又ハ鈴屋大人
ト御尊ニ遊ハシ。御頼ニナサレテ。公羽ノ講釈ヲ御聽聞
ナサレ。閑院ノ宮様。妙法院ノ宮様ニテモ。公羽ヲ召サレテ
御慕ヒアソバシ。實ニ千古ノ昔ヨリ。カヤウノ事ハアリヤ致
サニテム。扱爰ニ一ツノ話ガアル。夫ハ今世ニ戲作者ト
云フガ有テ。彼ヤ此ヤノ書物ヲ見カザリ。アソコヲ取テ
コヘ紹ギ。無フモ有ルヤウニ面白クヲカシク書取テ。其

ヲ渡世ト爲テ居ル者。シヤカトカク小利口ニ立回ツテ。
面白サウナ。ハ猿ノヤウニ人眞似ヲスル。既ニ本居先
生ノ古ヘニ高皇産靈神ト申スカ。天上ニ坐テ。世
ノ中ノ方物人種ヲモ御造リ出シナサレタト云フヲ
其著サレタル書トモニク。レク言テ置レ。又大禍津日神
ト申スカ。オハシ坐テ。世中ノアレキ事ヲツカサドリ。大直
毘神ト申スカ。御坐テ。其悪キヲ善キニ復サウ。ト
ナサレ。是モ古書ニ據テ。イヒ置レタルヲ見ルト直サマ。
善玉悪玉ト云フ。戲作本ヲ作テ。天道様ガ竹ノ管ヲ

以テ。子供ガレヤボニトヤラヲ吹ク躰ニ函ナドヲ書テ世
ニ弘メ。タ今ハヤル五冊モノトカ云テ。敵討ヤ。因果咄
シヲ書綴リタルヲ見ルニ。近頃ニ出來ルモノホト古イ
詞ヲ交テカキ。又一人ニテツブくと。小言ナド言フ事ヲ。
古イ詞テハ。ヒトリゴチテト云フ。其戲作本ニ。コナ詞モ
アル。又俗ニソレハコレハナド、言ヲソハコハト云フ。カヤウノ
詞モ戲作者ガ。ネテ書ク。コリヤトウレテ。彼等ガ知テ
カクト云ニ。皆我翁ノ著サレタル書物が古ヘ言テ書テ
有ル故ニ。其ヲ見ヤウ見眞似ニヤツテ見ルノデム。爰ニ又

ヲカシイ事ノアルハ。我ガ同門ノ者ノ処ヘ俳諧ヲスル者
ガ來テ。ソレガ庭トヤラヘ。亀ノ子ガ來タトテ。キツク悦ビ。
其事ヲ文ラシキ物ニ書テ。持テキテ直シテクレトト
云故ニ。其ヲ書直シ。亀ノ子ガ不意ニ來タト書テ有
タ処ヲ。ユクリナクト直シテ遣タレ。其人カ云ニ。外ハ
ヨケレ。此ユクリナクト云詞カ有テハ。今流行ル五冊
物ノヤウテ。悪イカラ。昔ノヨイ詞ニ直シテモラヒタイト
云タデ。是ニハ同門ノ者モアキレタトノ話テム。ナドト戲
作者トモガ能ニシロ。其眞ノ言ガケツク俗ノ詞ニヤト

思フ程ニ公翁ノ徳ハユキ渡ツテ。世ニ有難キ公翁ナレト。世
ノ人ハ知ラズ。唐人モ申タ通り。耳ガ聾テ。謂ユルツニ
ホウナル者ハ。雷ガ鳴テモトニト聞エス。盲人ハ何ナル面
白キ物モ見エヌヤウナモノテ。世ニ道ヲ学ブノ。学問ヲ
スルノト云人々モ。知ラズ。其徳ヲ蒙ツテ居レト。此
公翁ノサバカリ有難キ先生ニオハセルコトヲバ知ラヌテ。
サテ公翁ノ著サレタル書物が五十五部。巻數百八十
餘卷有テ。何レモく。学問スル者ハ常ニ傍ヲ放サレヌ
物テ。一部一冊トシテ。是ハト人ノ手ヲ拍ヌモノハ無テト。

扱コノ先生ハ。享和元年九月廿九日ニ。御年七十二ニテ
身ニカラレタテト。抑中古ニ儒佛ノ道ガ渡テヨリ以來。
世人ノ心其風ニ推移ツテ。古道ノ趣ハ粗畧ニ成行ミレテ。
次第ニ猥リガハレク。世ヲ經ルニ從テ。古ノ道ハ絶タルガ
コトク。足利將軍ノ天下ノ政事ヲ執申サレミレタル頃ハ。
誠ニ乱世ノ至極テ有ミレタ処カ。織田信長公。豊臣秀
吉公。次々出サセラレテ。大キニ悪弊ヲキタメ直サレミレテ。
天下ノ人畧ソノ威勢ニハ服シミレタナレト。猶人心ハ穩ニ
ナリ。ミセヌ処ニ畏クモ東照大神君。御武徳ヲ以天下ヲ

治メサセラレ。其御仁澤至ラヌ隈ナク。人々忠孝ノ道ヲ
心得。尊内卑外ノ旨ヲモ辨ヘテ。次々古ニ復リ行ヘキ中
ニモ。世ヲ治サセラル、ニハ。古道ヲ学ベキヲ。專一ナル儀ヲ
思召サレ。天下ニ命セテ。古書ヲ御求メ遊バサレ。緊要ノ
書等ヲバ悉ク書寫ヲ命セラレ。京都ニモ江戸ニモ。駿
府ニモ差置セラレタテム。是ラノ御事ハ。當時ノ御記
録トモヲ拜見イタセバ。明カナルヲテ。扱其多ク集メサセ
ラレタル古書トモヲバ。尾張源敬公ニ御附属ナサレ。敬
公是ニ依テ。神祇寶典。類聚日本紀ナド申書ヲ撰メセ

ラレ。又水戸ノ源義公。其御志ヲ継セラレ。有用ノ御書昆
御撰有タル御事ハ。既ニ上ニ申スカ如ク。是ヨリ世ニ弘マリ。
コノ学問ニ仕ヘ奉ル人々。追々出ミレタル中ニ。身ハ下ナカラ。
荷田宿禰羽倉東滿翁。賀茂縣主岡部眞淵翁。平阿
曾美本居宣長翁。此三人ノ大人等。次々ニ勵ミ学バレ。
其門流モ多ク。今ヲカヤウニ眞盛ト相成リ。我輩ニ至ルマ
テ。太平ノ御徳化ヲ蒙テ。心寛ニ古学ニ仕ヘ奉ルヲト成
タル。專東照大神君ノ御恩頼ニヨルヲト。有難シ臣尊
シ臣。稱ヘ申ヘキ詞モナイテム。猶是等ノヲハ。別ニ委シク

記シタル物ガ有ニスル。今ハ彼カケテ通ルト申程ノコト故ニ。
大畧ノ中ノ。又大畧ヲ申スノテム。

サテ此方ノトク道ノ趣ハ。何ニ據テ申スゾト云ニ。古ノ事
實ヲ御記シ傳ヘ遊バサレタル。朝廷ノ正シキ御書物ヲ
本トシテ申スノテ。一躰眞ノ道ト云モノハ。事實ノ上
ニ具ツテ有ルモノテム。然ルヲトカク世ノ學者ナドハ。
盡ク教訓ト云フ事ヲ。記シタル書物デナクテハ。道ハ
得ラレヌ如ク思テ居ルガ多イテ。コリヤ甚ノ心得チ
ガヒナコトテ。教ヘト申スモノハ。實事ヨリハ甚下イ物テム。

其故ハ。實事ガ有レバ教ヘハイラス。道ノ實事ガナキ
故ニ。コレヘト云フカオコル。唐ノ老子ト云書ニモ。大道
スタレテ仁義アリト申タハ。コヲ見ヌイタ語テム。殊ニ
教ト云モノハ。人ノ心ニ親クハレニヌモノテ。其ハ譬言ヘバ。
武士ノ心ヲ勵マヌニ軍ニ出テハ先駭セヨ。人ニ後レル
ナト書タル。教ヘノ書物ヲ見セルヨリハ。古ノ勇士等ノ
人ニ先タチ。勇猛サカニ戦ヒ。高名ナト致シタル事實
ノ軍書ヲ見タル方ガ。淡ク心ニレニコニテ。我モ事有ラバ。
昔ノ誰カ如ク。通ヤツテ見セヤウト云フ。猛キ心ガフリ

起ル。カノ先カケセヨ。後レルナト云フ。教テハ。サマテ心ノ
振起ラヌモノテム。又近クハ。君ノ仇ハ討ベキモノゾト云
ヲシヘヲ聞タルヨリハ。大石内藏助ハジメ。四十七人ノ義
士ガ。千辛万苦ノ難義ヲシテ。主君淺野内匠頭殿ノ
仇。吉良上野介殿ヲ討タル實ノハナシガ。身ニレミクト
髪モ逆タチ。涙モコホレルホト。心ニ淡ク染ルモノテム。是ハ
誰レノ人モ。心ニハ覺エノ有サウナモノテ。殊ニ教ヘトイフ物
ハ。其心サマ其人トナリノ宜カラヌ者カ。言置タル教訓テ
モ。書ニ記テ遺ツテ有ルト。何サマ尤ラシク見エル物テ。唐ノ

教ヘノ書物ト云モノニハ。是カケシカラス多イ。或ハ君ヲ
弑シテ。國ヲ奪タル者ナドノ云々。教言ニサヘ。誠ニ金科
玉條ト云テ。玉トモ金トモイヒサウニ尤ラシク書テアル。
シカレモ其行ヒノ實ヲ見ル。主殺シ國賊ジヤニ依テ。
其尤ラシク言テアル事トモハ。皆空言ト云テソラゴト
ジヤ。實ガ無テ。其書列ネタル処バカリガ立派テハ。ソリヤ
山賣ノ能書ヲ見タヤウナ物テム。此等ノ訣ヲバ夢ニ
モ知ラス。教ヘノ書物テ無レバ。道ハ得ラレヌ。教導ニハ
ナラヌナド、思ツテ。世ノ常ノ学者ヤ。道学者ナニト云フ

輩ガ夫ハカリヲ唱ヘテ居ルト云ハ片腹痛イコト也。唐
テモ此等ノ訣ヲヨク心得タルハ。ツ孔子一人ノヤウ
デム。扱コソ其申タ語ニ我欲載也。空言不如見也。
行事史深切著明也トアルテム。此意ハ孔子ノ思フ
ニハ人ヲ教フルニ夫ハサウスル物デハナイ。是ハカウスルモノ
ジヤト云ヤウニ尤ラレキ教ヘ言ヲ記シテ人ヲ誨サウト
思フケレ也。夫テハ人ノ心ニ入カネルカラ。夫ヨリハ是ヲ人
ノ行ヒノ事實ニ書著シテ見セルホト。深切ニ著ルク
明カニ人ノ心ニレニルコトハ無イト云ノ意也。此意ユエニ

孔子ハ教ノ書トテハ一部一冊モ作ラスニタ。春秋ト云
記録ヲシラベ正シテ何ノ某ハカ。ル悪キ行ヒガ有タ。
誰ハカヤウノ善事カ有タト云コトアリノ終ニ記シテ。
ソノ記録ヲ讀メバ自カラ其中ニヤント悪ヲコラシ。
善ヲ勸ムコトヲ人ノ氣ノ付クヤウニ書取タモノ也。實ニ孔
子生涯ノ骨折ト云ハ。此春秋也。夫ユエニワカ志春秋
ニ有リトモ又我ヲ知ル者ハソレ惟春秋カ我ヲ罪スル者ハ
其タ。春秋乎トモ申タテム。此意ハ我存分ニ志ヲコメテ
記シタル物ハ春秋ジヤ。此春秋カ世ニ傳ハリ。後ノ人カ是

ヲ見テ。イカニモ孔子ハ。道ヲ辨ヘタル人ト知レルモノハ。春秋ジヤ。又國々ノ君ニレロ。主弒レハ主コロレ。親コロレハ親弒レト。有ノ々、ニ記シタル故ニ。是ハ孔子ノ憚リナキノレヤト。後ノ世ニ我ヲ罪ニ言ヒ貶スモノモ。此春秋ジヤト云ノ意テ。是程ニ心ヲコメテ書タル春秋ユエ。イツチ實ノ有モノテ。孔子ノ心ノヨク見エルハ。此書ニ越タル物ハナイ。然ルニ大カタ世間ノ儒者ナドガ。儒書ノ上テモ斯ノ如ク。慥ナル訣ノアルモ知ラズ。只くヒネクツタ理屈ノ。教訓ヲ書テ平ルハ。己ガ本尊トスル。孔子ノ本意ヲ會得セス。

春秋ヲ既ク讀ヌカラノ誤リテ。ナント是テ眞ノ道ト云フモノハ。教訓ノ書テハ其ウマミガ知レス。事實ノ書物テナクテハ。眞意ハ得ラレヌ訣シヤト云フ。モ合点ノユキサウナ物テゴサル。

只今申ス通り。眞ノ道ト云モノハ。教訓テハ其旨味が知レヌ。仍テ其古ノ眞ノ道ヲ知ベキ。事實ヲ記シテアル。其書物ハ何シヤト云フニ古事記ガ第一デ。其フルコトブミト云ハ。世間ノ人ガ古事記トオボエテ平ル書物ガ。此フルコトブミノ。トテ。扱コノ書物ガ。ドウシテ出來

タル物じヤト云ニ。挂マクモ畏キ神武天皇ヨリ。第三十九代ニ御當リアソバス。天武天皇ノ有難クモ厚ク思召立セラレタル御事テ。下躰ソノ以前古クヨリ朝廷ニモ諸家ニモ。記レ傳ヘタル所ノ。天地初發ヨリノ。古キ傳説ノ御書物が有テ。其カ神代ノ古言ノ倭ニ書テ有タデム。処カ其ニ各々誤リモ有リ。又紛ラハレキフモアツタト云フフデ。ソコテ天武天皇ノ御心ヅキ遊バシテ。カヤウニ紛ラハレキ説カ有テハ。今此時ニヨク其正實ナル所ヲ撰ビ定メズハ。後ノ世ニ至リテ。孰レヲ是トモ孰ヲ非トモ。

分ラヌヤウニ成ラウト仰ラレテ。其朝廷ノ御記録ハモトヨリ。諸家ノ記録ドモヲ集メテ。精密ニ御吟味アソバサシ。其少カモ紛ハレキ事ナク。正レキ所ヲシラゲテ。御撰成サレタル書物テム。尤モ神代ノ古言ノ倭ニ言ノ清濁ヲサヘ嚴重ニ御シラベ遊バシ。違ヌヤウ誤ラヌヤウニト先御自ラノ御口ニ。御誦ウカベ遊バシ。其時稗田阿禮ト云フ。媼ガ有テ。年ハ廿八歳。殊ノ外ニ利發聰明ナル人デ。口ニ誦ミ耳ニ觸タルフハ。心ニ記シテ。イツカナ忘レルト云フノナイ人デ有タテム。ソコテ其阿禮ヲ召セラレテ。

彼シラゲニ精ゲ遊バサレタル所ノ。天地ノ初發ヨリ。御
父帝舒明天皇ニテノ御事ヲ。天武天皇カ。御口ツカ
ラニ御教ヘアソバサレテ。其ヲトツクリト。稗田ノ阿礼ニ
唱ヘサセ。口ナレサセ遊サレタテム。是ハ御國ハ固ヨリ。言
靈ノ幸フ國ト。古語ニモ申レテ。言語ノ道ヲ守幸フ神ノ
オハシレシテ。其言語ノ上ニ盡ク精密ナル。眞ノ道ノ趣ノ
コモツテ有ルコトユエ。其ヲ違ヘヌヤウ失ヌヤウニト。重ニ思
召レテ。扱カヤウニ致シツク讀ウカベテ。言ノ清濁上下リ
マデヲ誦シタル上ニテ。御書取せ遊バサウトノ。厚キ御心

テオハシ坐タカ。其ウチニ御代カ替テ。此御次カ持統
天皇ト申上ル。其御次カ文武天皇ト申奉ルテム。所カ
此ニ御代ノ間ニ何ナル故ニカ。惟カノ阿礼カ口ニ誦ウカ
ベテ有ルバカリテ。御書取せ遊バサナニタテム。其次ヲ
元明天皇ト申上ル。此時阿礼ハモハヤ五十有餘テ有タ
テム所テ。此御代ノ和銅四年九月十八日ト云日ニ。太朝
臣安万侶ト云人ニ仰付ラレテ。夫ヲ御書取せナサレ。翌年
正月廿八日ト云ニ。記シ終テ献セラレタテム。是スナハ千
安万侶主人表序ニ書シタル趣テ。此書カ即古事記テム。

此和銅五年か。今此文化十年ヨリハ千百八年ニナルテ
ム。サレバ此古事記ハ畏クモ天武天皇ノ厚ク思召付せ
ラレテ御自ラ古傳説ノ正實ナル所ヲ御撰定アソハシテ
御誦ウカヘナサレタル古語テ有ニスルカラ世ニ類ヒモナク
イトモ尊キ御典テムモ元明天皇ノ御代ニ其御志ヲ
御繼アソハシテ御書取セナサレズニバカホトニモ尊ク有
カタキ古語モ阿礼ノ姫カ命ト共ニ失果ルテ有マシタラ
ウヲ有難クモ和銅ノ御代ニ御記レ遊サシテ今世マデニ
傳リ來テ斯ノ如ク拜見奉ルト云ハ有カタレ凡有難イ

コテカリソメニモ道ニ志有ニ者ハ頂ニ捧持テ天武天皇
又元明天皇ニ御代ノ有難キ思召レマタ稗田阿礼
太朝臣安万侶ノ恩德ヲ忘ルベキコテハナイテム。扱コノ
御記ニ天地ヲ御始メ遊ハシタル神々ノ御事實ヲ始。其
餘ノ事實ニ盡クカノ始メ。道ノ趣ハ具テ有テムサレバ
本居翁ノ歌ニ上ツ代ノカタチヨク見ヨイソノ上古コト
ブニハミソミノ鏡ト詠レタテム。上ツ代ノカタチヨク見ヨト
ハ。上代ノ有様ヲヨク見タカヨイ。其上代ノ有様ヲ能知ウ
ト思フニ古事記ヲ讀サヘスレバ眞澄ノ鏡ノ曇ナキカ

如ク明カニ。上代ノ眞ノ道ハ知レルト云ノ意テム。扱拙者ノ演説イタス所ハ。此通り明カニ知レル。其古事記ノ事實ヲ本ト致シテ。古ノ道神ノ御上ヲ申スナレバ。天武天皇。元明天皇。ゴノ二御代ノ厚キ御心モ。思召モコモツテ有ル。カタク以テ勿躰ナク。恐多キ。ユエ。何レモ其御心得テ御聞アルカ宜イ。此方ノ身分コソ賤キ者ナレトモ。其申所ハ神ノ御事實。畏クモ古ノ天皇命ノ。濃ク厚キ思召テ。殊ニ六御口ツカラ御誦ウカベ。御傳へ遊ハシタル。故ニ實以ナホザリナラヌ御事テム。

扱世間ニ。神ノ道ヲ學ブト云人ガ幾ラカ有テ。夫ラハモトヨリ。大凡ノ世人モ。日本書紀ノ三尊ヒソノ第一第二ノ卷ヲ。神代卷ト云テ。此二卷ヲ別ニ板ニ致シ。俗ノ神道者ナント。ウルサク言痛キマテニ。注釋ヲイタシテ。世ノ始メマタ神ノ御事實ヲレルニ。此ヲ除テ。外ニ書物ノ無ヤウニ。思テ平ルケレバ。其ハ心得違ヒテ。其委キ訣ハ。師ノ古事記傳ノ始メニ。具ニ記シ置シマシタカ。其大畧ヲ申サバ。先一躰カノ日本書紀ト申ス書ハ。和銅五年正月ニ。古事記ヲ御書取せ遊ハシテ。

カラ八年後ニ。四十四代。元正天皇ノ養老四年五月。
尤モ是モ勅命ニ依テ。一品舍人親王ノ御記レナサレ
テ。奏上ラレタモノデ。其以前ニ御撰ヒ遊ハサレタル古
事記ノ有ルガ上ニ。重ネテ是ヲ御撰ナサレタル訣ハトウ
シヤト申スニ。古事記ハ右ニ申ス通り。上代ノ趣ヲスナ
ホニ有ノマ、ニ傳ヘヤウト。天武天皇ノ厚ク思召タル
コト。安万侶主モ。其大御心ヲ心トシテ。記サレタル物
故ニ。只アリノ儘テ。漢ノ國史ト云モノ、躰ニハ似モツカ
ス。當時ハ公ニモ。漢學問ヲ盛ニシ。御好ニ遊シタルヲリ

カラ故ニ古事記ノ餘リニ。只有ノマ、ニ飾ナク。見立ナ
クテ。淺くト聞ユルヲ。歎ス思召テ。更ニ廣ク事トモヲ
考ヘ。年紀ヲモ立。マタ漢メカレキ語トモヲ。飾リソヘ
ナドモシテ。漢ノ文章ヲ作シ。諸越ノ國史ニ似タル國
史ト立ニ爲ニ。御記ナサレタモノデム。一躰カ此ヤウノ御
趣意デ。御記レナサレタル事ユエニ。トニト漢風デ。甚ダ
古ノ實ヲ失ツタルコガ多イデム。抑意ト事ト言トハ。
皆相稱ツテ居ベキモノデ。夫ユエニ上代ハ。意モ事モ言モ
上代ノサマカ有リ。後ノ世ハ。意モ事モ言モ。後ノ世ノ様

カ有リ。又漢國ハ意モ事モ言モ。漢國ノ様ノ有モノテ
ル。所ヲカノ日本紀ハ。後世ノ意ヲ以テ。上代ノ事ヲ記シ。
漢國ノ言語ヲ以テ。皇國ノ意ヲ記サレタル故ニ相稱ハ
ズ。コ、テ古ノ實ヲ取失ツタルコトモカタイテム。又古
事記ハ。少カモ狡意ヲ加ヘズ。古ヨリ言傳タルマニ。記
サレタルニ依テ。其意モ事モ言モ相稱ツテ。皆上代ノ
實テ。是ハ專古ノ語言ヲ主ト。記サレタルガ故テム。凡テ
意モ事モ言ヲ以テ傳ヘル物ジヤニ依テ。書物ハ其記
タル言辭ガ主トアル大切ノモノテム。仍テ爰ニ日本紀ノ

カサリノ漢文ユエニ古ノ實ヲ失ヒ。カツ後世ノ惑ヒラ
生ジタルコトヲ。一ツニ言ハハ。先ソノ神代卷ノ始ニ。古天
地未剖。陰陽不分。渾沌如雞子。ト云ヨリ。然後神聖
生其中焉。トアル。テハ漢籍淮南子ト云フモノ。マタ
三五曆記ナド云モノ。其外ノ書ノ文ヲモ。彼此トリ合
セテ。カサリニ加ラレタル撰者ノ意テ。此方ノ古ノ傳説
テハ無テム。此續キノ文ニ。故曰。開闢初。洲壤浮漂。
譬猶游魚。史浮水上也。云々トアルハ。是ガ實ニ
此方上代ノ傳説テ。故曰トアルヲ以テ。夫ヨリ上ハ。新ニ

撰者ノ加ヘラレタル文ナルヲガ知レミスル。若サウ無テハ
コノ故曰ト書レタルハ。何ノ意トモ知ヌテム。初ノ文ハ
凡テサカレク。皆漢國風ニ書レタル故ニ。御國ノ古傳
説トハ趣キカ違テキコエル。然レバコハ。古言ノ訓ヲ附
テヨムマデモナク。唯序文トシテ差置ガヨイテム。既ク
古人モ。釋日本紀ニ。日本紀卅卷無序。但師説。初
文。然後神聖生其中焉。已上者序文也。ト云テア
ルテム。ソモく天地ノ初發ノ有サマハ。實ニ我カ御國ノ
古ノ傳説ノ如テ有マセウモノヲ。何ナレバ煩クコキタキ。

異國ノ傳説ヲカリ用ヒテ。初メニ重ネ舉ラレタルヲカ。
今コノニツヲ比ベ見ルニ。漢風ノ方ハ。理ヲカク聞エテ。信
ニサウテ有タラウト思ハレ。古傳ノ方ハ。物ゲナク淺くと
聞エル故ニ誰モく。カノ漢籍ノ説ニニ心ヒカレテ。日
本紀ノ御撰者。舍人親王ヲ始メ。世々ノ識者。今ニ至ル
マテ。皆惑タモノテム。夫故ニ此漢文ノ処ヲ。道ノ真意
ト心得テ。煩クウツトレイホト。注釈ヲ書散シ。秘授ノ
口傳ノト言ヒ。騷テ居タカ。扱ク淺マレク拙イコテム。
又乾道獨化。所以成此純男トイヒ。又乾坤之道相。

參而化。所以成此男女トアル。是ラノ類ノ文モ。撰者ノ
心ヲ以テ。易ノ十翼ナドノ文ヲ採テ。新ニ加ヘラレタル
サカレラ文テム。マタ伊邪那岐神ヲ陽神ト書キ。伊邪
那美命ヲ陰神ト書レタルナニドモ宜クナク。是ハ其
頃上モ下モ。ヒタスラ漢メイタル事ヲ。悦ビ思ハレル世
テ有タル故ニ。此ヤウニハ書レタルコトナレ。甚以テ後ノ
惑ヒクサト成タテム。其故ハ後世ノ生漢意ノ學者
ドモ、同ク是ヲ悦ニテ。其生サカレキ心ニ伊邪那岐命。
伊邪那美命ト申スハ。唯カリニ名ヲ設ケタルモノテ。御

神躰アル物テハナク。實ハ陰陽造化ヲ指テ云々モノゾ
ト心得テ。或ハ周易ノ理ヲ以テ説キ。陰陽五行ヲ以テ
説クコト成タル故ニ。神代ノコトハ皆假ノ作りコトヤウニ
ナリ。古ノ傳説ハ。悉ク漢意ニ奪ハレ果テ。眞旨ノ見
エヌヤウニ成タモノテム。抑撰者ハサヤウノコトニハ。御
心モ付セラレズ。唯文ノ漢メクヲ好コトシテ。飾ノミニ泥
マレタラウナレ。此文トモハ後世ニ至テ。サマクノ邪説
ヲ招ク媒トナリ。眞ノ道ノ顯レ難キ根本トハ成タテム。
猶此外ニ煩クコチタキ潤飾ノ文ヲ加ラレテ。事實ノ紛

ト成タルコト少カラズ。或ハ神ノ御名ナニトヲモ唐ノ異形ノ
物ノ名ニ書替タリ。中ニモ甚レキハ神武天皇ノ御卷ニ
弟猾大設牛酒以勞饗皇師焉トカキ。崇神天皇ノ
御卷ニ蓋命神龜以極致災止所由也ト書レタル撰
者ノ御心ハ。只漢文ノ潤飾ハカリテハ有ナレ。後ノ人ハ
是ヲ實ト思ヒ。牛酒トアル故牛肉ヲ食ヒ。神龜ト有レバ
ト法ニ龜ヲ用ロタルコト思フニ依テ。學問ノ害トナルコ
ト。牛ヲ食ロトニ龜ヲ用ルナドハ。唐テイタスコトアル。マタ
景行天皇ノ御紀。倭建命ノ東國ヲ言向ニ御出立遊

ハス所へ。天皇持斧鉞以授日本武尊曰云ミト書
レミレタカ。凡テ古カヤウノ時ニハ。矛カ劔ナトヲコソ
賜ツタルコトナレ。斧鉞ヲ賜ハツタルコトトナイ。夫
故ニ是モ古事記ニハ。給比々羅木八尋矛ト有ル。是
カ實ノコトアル。其ヲ強テ漢メカサウトテ。斧鉞トハ書レ
タモノデ。語ヲ飾ラレタルハ。マタ容ル、方モ有レト。カヤウ
ニ物ヲサヘニ替テ書レタハ餘リノコトデ。猶コノ類カ夥シク
有ルデ。然レモ又コ、ニ日本紀ノ勝レタルコトヲ言ハ。先
神代ノ傳説ヲ。精粗異同ニ拘ハラズ。一書ニ曰トテ悉ク

古傳ノ終ニ竝ベ奉ラレ。又神武天皇ヨリ以後ハ猶更
御代ノ御事ヲ委ク詳ニ載レタルニ依テ。メテタキ御
事實多ク傳ハリ。彼漢風ナル飾ノ文面ヲ除テハ。世ニ
有トアル御典ノ中ニ。此御典ホド。尊ク大切ナルハナイテ
ム。サレハ師翁ノ歌ニ。ミツブサニ何テ知。ミレ古ヲ。ヤマト
御紀ノ世ニナカリセバ。ト詠レタハ是故テム。此等ヲ以テ。
古事記ト日本紀ト。互ニ得失差別アルヲ知ルガ宜イ
テム。所ヲ昔ヨリ。世間ノ人オシナベテ。唯コノ日本紀ヲ
ノ三尊ビ用ヒテ。世ノ學者モ。是ニハイタク心ヲ碎テ。

神代ノ卷ニハ頌イホト注釈ナトモ多ク有ルニ。古事記
ヲハ唯等閑ニ思ヒ過レテ。心ヲ用フベキモノトモ思ハズニ
差置タハトウレタ。トジヤト云ニ。世ノ人タハ。漢籍意ニ
ノ三泥ニテ。大御國ノ古意ヲ忘レ果タル故テ。ソノ甚
シキニ至テハ。古事記ヲ日本紀ノ下書ノヤウニ心得テ
居ル人サヘ有ルカ。是ラハ一向ニ事ノ趣ヲ知ラヌ未レキ
ヲテ。云ニモ足ラヌ非ヲテム。爰ニ我が鈴屋翁ハ。ソノ漢
籍意ノ好ラヌヲ悟リ。上代ノ正實ナル旨ヲ。マスミノ
鏡ノ曇リナク孰見アキラメ。古ノ眞面目ヲ見ルベキハ

古事記ナルヲ世ニ誨シ。古事記ノ傳ト云フ。類ヒナク
メテタキ書。四十四卷ヲカキ著シ。古事記ノ尊キ由ヲ
知ルニハ。先日本紀ノ潤飾多キヲ知ラサレハ。漢籍意
ニ迷ヒラル痼疾サリカタク。此病カ去ニテハ。古事記ノ
宜キヲが顯レズ。古事記ノ宜キヲ知ニテハ。古事ノ
正シキ道ハ。知ラヌト云フヲ發明イタサレ。古事記ヲ
以テ。有ルガ中ノ上タル史典ト定メテ。日本紀ヲハ。是ガ
次ヘ立ラレタモノデ。假令ニモ。皇大御國ノ學問ニ志
ノ有ラニ輩ハ。努ク此意ヲ思ヒアヤマラヌヤウニ仕タ
ガヨイト。懇ニ言ヒ置レタテム。

扱コノ日本紀ノ題名ハ。日本書紀ト書テアルケレ也。ヤ
ハリ俗ノ言習ハレノ通り。日本紀ト稱レテ。書字ノ無
ノガ本稱テム。然レ也。其日本紀ト云フ題号モ。心得カ
タイコト也。其ハマツ漢ノ國史ノ漢書唐書ナト云フ名ニ
倣テ。御國ノ号ヲ標ラレタモノナレ也。漢國ハ代々ニ國ノ
号ノ替ル故ニ。其代ノ号ヲ以テ名ヲ付ネハ。分リ難イ
カラノコト。皇國ノ御皇統ハ。天地ト共ニ遠ク長ク。御續
遊ハレテ。替ラセ給フコトガナイニ依テ。國号ヲ標テ。ソレト

テ。神ノ御末ジヤト云セシモノイト申テム。夫モ更ニ
神國トモ。神ノ御末トモ知ラス。ソニ志モ無ク。謂ユル
空々寂々トヤラテ居ル人ハソリヤ爲方カナケレバ。
カリソメニモ。神ノ有難イ謂ヲ聞ウトテ。此ヤウニ御入
來アルト云フハ。既ニ志ノ有ルト云モノテム。苟クモ人
ト生レテ。眞ノ道ヲ知リタイト云フ志ガ有ナラハ。此ヲ
バツ誠ノ処ヲシラベテ置タイモノテ。既ニ唐國ノ人
スラ。禮記ニ君子論撰其先祖也美。而明著之後
世也云々。其先祖有善。而弗知。不明也。知而弗

傳不仁也。此君子之所恥也。ト申テアル。此意ハ眞ノ
道ヲ行ク人ト云モノハ。其先祖ノ美ヲ撰ヒ論メ。其事
ヲ明カニシテ。後世ニ著レルヤウニ爲モノシヤ。然ルニ其
先祖ニ善事ノ有ルヲ知ラスニ居ルト云ハ。不明ト申テ。
道理ニ昧イト云モノシヤ。又其先祖ニ善事ノ有ルヲ
知テ居ナカラ。其ヲヨク明ラメ。世ニモ傳ヘヤウト思ハヌ
ト云ハソリヤ不仁ト云テ。言ハハ。先祖ニ不實不孝ト
云フモノシヤ。是カ誠ノ道ヲモ迪ラウト思フ人ノ恥ヘキ
事ジヤト云フテム。ナシト唐人スラカヤウテ。夫ニ此有

難イ神國ニ生レテ神ノ御末トアル此方カ其本ノ所
以ヲ知ラスニ居テハナニト口惜イフテハナイカナ。實ニ
御國ノ人ニ限りテ唐土天竺オロシヤオラニダシヤ
ムロカボチヤ等ノ國ニ至ルニテ凡テ此天地ニ有トアラ
ユル万國ノ人トハトニト訣カ違ヒ尊ク勝レテ平ルコハ
先コノ御國ヲ神國トイヒ初タハモト此國ノ人ノ我
ホメニ申タフテハナイ。先其濫觴ヲ申サバ万國ヲ御開
闢ナサレタルモ皆神世ノ尊キ神ニテ其神々チ衆ク
此御國ニ御出來ナサレタルコトナレバ則御國ハ神ノ御

本國ナルコト故ニ神國ト稱スハ實ニ宇宙舉テク公論
ナルコト更ニ論ナキコトナレバ其古傳ヲハ傳ヘ知ラザル
國々ニテモ自然ト御威光ノ輝イテ神國ナル事ヲ知
タルコトハモト今ノ朝鮮カニ韓ト云テ新羅高麗百濟ト
申タ時分ニ御國ノ世ニ妙ナルフレキナ有カタイ國ナルコ
ト彼國テ聞傳ヘテ御國ハカノ朝鮮カラハ東ニ當ル故
ニ其國ノ人ガ東ノ方ニ日本ト云フ神國ガ有ルト云テ
キツク恐レ敬ツタモノテ其詞ノツビク世ニ弘マツテ今
テハ世間一般ニ知ルモ知ラヌモ神國ニト云ヤウニ成タ

モノテ。是ハ漢人ナカテモ。能ク言當タルコトテ。其神國ニ
違ナイト云訣ハ神代ノ事ヲ學ブト能知レル。夫ハマツ
此世界ハ大造廣ク大キイコトテ。國モ勿論タニト有ル。
其中テ我國ハカリヲ。神國ジヤト云テハ。トウカウヌホ
レトカ云スキニ聞エルケレ。上ニ云フ如ク万国ノ公論テ。
夫ニ違ノナイト云フ證據ヲ。今具ニ申サウナラバ先以
テ世ノ初メ。神々カラノ言傳ヘニ。此天地ノ無キコトハ。
本ヨリ申スニ及バス。日月モ何モナク。只虚空ト云テ大空
バカリデ有タガ。其大虚空ト云モノハ。更ニク極レナク

大キイコトテ。實ハ口ニテハ。何トモカトモ言ヤウナク。限
ナイコトテ。其限リノ無イ大虚空ノ中ニ天御中主神
ト申ス神オハレ坐シ。次ニ高皇產靈神。マタ神皇
產靈神ト申上ルニ柱ノイトモク奇ク尊ク妙ナル
神様が在ラセラレタテム。扱コノニ柱ノ皇產靈神
ノ。其クスレク妙ナル御徳ニ因テ。其極レモナク限リモ
無イ大虚空ノ中ヘ。其狀イフニ言レヌ一ツノ物カ先
生テ。其一ノ物カ。何モナキ虚空ノ中ニ漂テ平ル躰カ。
タトヘハ雲ノ一村。係ガル所ナク。浮テ平ルヤウテ有タ

ト云フテム。所か其一ツノ物カラ。丁ド葦牙ノ如ク。ヒラ
ヒラト角ク三騰タ物ガアル。其アレカヒト云ハ。葦ノ芽
ト云フコテ。則ソノ立騰タル形ガ。葦ノ芽ノフクヤウテ
有タ故ニ斯ヤウニ申傳ヘタモノテム。扱ソノ上ツタ物
ノ躰ハ如何ナル物ジヤト申スニ。是ハイカナル物ト云フ
コ。傳ヘカナイニ依テ。申サレヌコナガラ。試ニ申サバ。清ク
スミ明ラカナ物テム。ナゼサウ申ズナレバ。是ガ則日ト
成タルモノテ。後ニ天照大御神ノ知レ看テヨリ。ソノ御
體ノ御先ノ照徹リ坐テ。マノアタリ。天ツ日ト拜奉ルヲ

以テ知ルテム。扱此物が萌上リ騰ルホトニ。上へ騰テシ
タ、カ廣ク大キクナル。譬へハ山カラ。雲ノモエ出ル時ハ
細クテ。言ハ、葦芽ノフクトモ云ヘキ様ニ見ユレ。上へ升
テ限リモ無ク廣クナルヤウナ物テ。御國ノイニシヘ。則
神代ニ天國トモ。高天原トモ申シ。マタ唯ニ天トバカ
リモ申タコテム。此等ノ訣ハ。此次ノ処テ申スト能ク
訣ルカラ。夫マテ待レルガ宜イデム。扱始メ葦芽ノ如
モエ上リタル時ニ。夫ニ依テ御生ナサレタル神様カ在ル。
其御名ヲ宇麻志阿斯訶備比古遲神ト申上ルテム。

又其モエ上テアメト成タル。其ツト上ノ処へ御出來
ナサレタル神ノ御名ヲ。天也常立神ト申上ル。扱カノ
元ノ処則葦芽ノ如ク萌上ツテ。天上成タル物ノ根ト
爲テ平ル処ヨリ。下へ垂下リタル物アリ。是ニ依テ御成
ナサレタ神ノ御名ヲ。國也常立神ト申シ。夫ニ追スカ
ツテ。御出來アソバシタル神ノ御名ヲ。豊斟淳神ト申ス。
此垂下リタル物カ。後ニ断絶テ月ト成テム。扱又上ニモ
非ズ下ニモアラス。其元ノ処へ始メテ御生ナサレタルガ。
宇比地通神ト申ス。男神ト。須比智通神ト申ス。女神

トガ御出來ナサレ。其次ヲ角檝神。活檝神ト申シ。其
次ヲ大斗能地神。大斗乃辨神ト申シ。其次ヲ淤母陀
琉神。訶志古泥神ト申シ。此次ガ人ノヨク知テ居ル伊
邪那岐神ト。伊邪那美神ト御成ナサレタテム。サテ
ハジメニ申タル。天也御中主神ヨリ以下。此伊邪那岐。伊
邪那美神マテ。十七神ノ御名ニ。悉ク深イ訣ガアル。此
ヲヨク心得ルト。別シテ其神ノ妙ナル道理モ。能ハル
ヲテム。ナレモ先日相断リミスル通り。只ソノ道ヲカケテ
通ルヲ故ニ。是ハ別ニ委ク申スツモリテム。但シ是ウチ

皇產靈神ノ御名ノ義ヲバ。今カ今キツト。心得ネバ
ナラヌ訣カ有ニ依テ。是ヲバ一通申レセウテム。其ハ
先カクノ如ク虚空ノ中ヘ一ノ物ノ出來タルヲ始メ。其
中ヨリ葦芽ノ如ク萌上テ。天日ト成タルモ。神ノ御
出來ナサレタモ。此後伊邪那岐伊邪那美神ノ御國
ヲ御生三固メナサレテ。月日ノ神ヲ始メ奉リ。モロクノ
神ノ御生ナサレタルモ。又此後モ追々諸ノ神ノ御
出來ナサレテ。各々ソレクニ主宰テ。在ラセラルケレ
トモ。其元ハ皆コノ皇產靈神ノ御德ニ依テナル事

テムソリヤトウレテ知レルト云ニ。其訣カ御名ノ上ニ具テ
有ル。其ハマツ高ト云モ。神トイフモ。尊ニテ申タル詞。又
皇ト申スハ則御ノ字ノ意テ。高ト云ヒ神トイヒ。御ト
云テ。此神ノ御德ヲ大ニホメ稱タモノテム。又產ト申ハ
產スルト云字。マタ生スルト云字ノ義テ。物ヲムシ生シ出
來スヲテム。古歌ニ我君ハ千世ニ八千世ニサレ石ノ巖
トナリテ苔ノムスマテト云ハ。苔ノ生ルマテト云フテ。
則ソレト同シ詞テム。又今ノ世ニモムスコムスメナト云モ。
スナハチ我ムシ生シタル子ト申フテ。神代ノ古言ノ遺テ

ヲルノテム。又ムスビノヒハ。奇く妙くニシテ。言ニイハレズ
測リ知レヌ。尊キヲ云フ古言テ。マノアタリ此世ヲ御
照シナサレル日輪ヲ。日ト云ノモ。孰く見レバ見ルニク。
ハナハタ靈ク尊ク。奇く妙くナル物ユエニ。日トハ云フテム。
皇產靈神ハ。天地ヲサヘニ御作り遊ハス程ノ奇く妙
妙ナル御神徳ヲ具ヘテ。入セラル、神様シヤニ依テ。ヒト
マラス詞ヲソヘテ。申上タモノデム。御名ノ義ヲツメテ
申サバ。天ト申ス高キ処ニオハシ坐テ。世ニアリト有ル事物
ヲ。生シ御出カシ遊ハス。奇く妙くニ尊キ神ト申、トテム。

又御名ノ上テ知ルハカリテ無ク。其ハ追くニ分リマスガ。
伊邪那岐。伊邪那美二柱ノ神ヘ。天ノ沼ヲト申ス。御
矛ヲ下サレテ。此漂ヘル國ヲ造リ固メヨト仰付ラレテ。
御下シナサレタヲ始トシテ。世ノ中ノ諸事ヲ主宰テ在
セラレル訣カ。神代ノ事實ノ上テ明カニ見エテアル。又
事實ニ見エテ有ハカリテ無ク。神武天皇ヨリ廿四代ニ
御當アソハス。顯宗天皇ノ御代ノ。三年ト云春二月ノ
一シヤガ。日ノ神。マタ月ノ神様ガ。人ニ御託ナサレテ。阿閉
臣事代ト云人ヘ。御誨アソハスニハ。我御祖高皇產靈

神ハ天地ヲサヘ造リミシタ御功アリ。仍テ神領ノ民地
ヲサシ上ラレヨ。若其通り差上ラレタナラバ我幸へ守ラ
ウト御誨シナサレタテム。是ニ因テ神領ノ民地ヲサシ
上ラレゾレク仰付ラレテ御祭アソビシ。又コ、カシコヘ其
御社ヲ御建遊バシタナトノ。慥ナルヲモアルテム。扱此時
ノ。日神月神ノ御誨言ニ高皇產靈ノ御神ヲ。ワカ御
祖ト仰セラレミシタガ。此御祖ト申スハ。近ク申サバ。御先
祖ト申ス程ノヲテム。一躰日ノ神月ノ神ハ。伊邪那岐
神ノ御子ニオハシ坐ナガラ。高皇產靈神ヲ。我祖ト仰せ

ラルハ。トウシタ訣シヤト申スニ。諸ノ神ノ御出來ナ
サレタルモ。言モテ行ケバ。皆コノ高皇產靈神皇產靈
神ノ產靈ノ御靈ニ依ラヌト云フハナイ。其故ニ。日神
月神様テサヘ。皇產靈神様ヲバ。我祖ト仰セラレタ
モノテム。既ニ神代ノ卷ニハ。產靈ノ神様ニ。御子が千五
百座ミシクタト云フカ有ル。チイホト申スハ。千五百ト書
テアルケレ。千五百ニ限タフテハ無イ。此ハ只數ノ限ナク
多イヲ。古言ニハ千五百トカ。八百万トカ云フ例テ。有
ユル神等ヲ。皆コノ御神ノ御子シヤト申テモ。實ハ宜イ

ヤウナモノテム。其故ハ。神モ人モ。皆コノ御神ノ産シ御
生ジナサル。奇ク妙クナル御神徳ニ因テ。出來ルカラノ
フテム。拾遺集ト申スハ。三代集ノ一ツテ。朝廷ノ御撰集
シヤカ。其中ニ君見レバムスフノ神ゾウラメレキ。ツレナキ
人ヲ何ツクリケニト申ス歌ガアル。此歌ノ意ハ。扱ク君ハ
情ナイ方ジヤ。サウ情ナクサツレヤル君ヲ見ル度コトニ。
産靈ノ神様ガ。御恨メレウ存ジマスル。其訣ハ。ナセ此ヤウ
ニツレナイ人ヲ。御造リ出シナサレタフジヤト。深ク思ヒ
マスルト云フ意テ。是ハモト戀ノ歌デハ有ルケレ。此時分

マテハ。此神様ノ御徳ヲ。世間ノ人モヨク慙テ居タル故
ニ。斯ヤウノ歌モ詠タモノテム。ナント皇産靈ノ神ト申
御名ノ訣ト云ヒ。神代ノ古事ヲ。御記シナサレタル事實
ノ上ニ。何事モ其本ハ。皆コノ二柱ノ。産靈ノ妙ナル御靈
ニ因ル所以ガ。明カニ見エタルト。月ノ神日ノ神ノ御サトシ
言ニ。我祖高皇産靈神ハ。天地ヲアヒ造ラレ、御功ア
リト。慙ニ御サトシ遊ハレタルヲナトテ。此神ノ御徳ノ有
難イフモ。實ニ天ニミシ坐テ。世ノ中ヲ主宰シテ在セラ
ル。訣モヨク分ルフテムサ。是程ニヨク道理ノ見エテアルフ

テモ。唐ヤ天竺ノ學問ヲ。ワルク仕損ツテ平ル學者ヤ。
又ハ學問ガナクテモ。生サカシラニ生レ付タ輩ナトハ。其
己ガ生レテ出タルモ。直ニ此御神ノ産靈ノ御靈ニ依テ。
出來タル物ナルヲ辨ヘズ。猶レソコク疑ハレク思ツテ。ソ
リヤ此國ギリノ昔ハナレテ。實ニサウタカ。信ジラレヌナド
思フモノデム。サヤウノ族ニハマタク申聞ス事ガアル。ナニ
ト御國ハカリテ無ク。諸ノ外國ニ人タネノ生タルノモ。
又悪イナガラモ國ラレクナリ。夫々ニ物ノ出來タルモ。皆
此神ノ御靈ニ因ルヲデ。其證據ニハ。其國々ニ各々ソノ

傳ヘカ有ル。夫ハマツ唐ノ古傳説ニ。此神ノ御事ヲ。上帝
トモ天帝トモ。或ハ皇天トモ名ツケ奉ツテ。其神カ。天
上ニ坐シレテ。世ヲ主宰シテ。人モ其御靈ニ依テ生ジ。又
人ノ性ニ仁義礼智ト云ヤウナ。誠ノ心ヲ具ヘテ居ノモ。
皆コノ上帝ノナサレルヲ。ジヤト云フ傳カ。形ノ如ク傳ツテ
アル。是ハカラノ書物テモ。グツト古ク。詩經。書經。論語ナ
ド云モノヲ見テモ。眼ヲ活シテ見ルトヨク知レル。但シ
漢土ハ生サカシラナ國俗ユエ。夫ヲカレク寓言ノヤウ
ニトキ枉々説トモガ有ナレ。其事ハ。先年鬼神新論ト

云書ヲ著シテ。具ニ辨ジテ置タテム。又天竺ノ古傳説ニ
産靈神ノ御事ヲ。大梵自在天王ト稱シ。マタ梵天王
トモ申傳ヘテ是モヤツバリ其神カ。忉利天ト申ス至テ
高イ天上ニ御坐テ。世中ヲ主宰シテ。尤天地モ人間万
物モ皆此神ノ造タモノテ。此神ホト尊イ神ハナイト。上
古カラ言傳ヘタモノテム。所カハルカ後世ニ釋迦ト云人
ガ出テ。佛道ト云フヲ。己カ心ヲ以テ作り始メ。神通ト
云テ。實ハ幻術ジャカ。其幻術ヲ以テ人ヲ惑ハシ。其梵
天王。帝釋天ノヤウナフテハ無ク。其ヲ供ニモツル程ノ。

ケシカラス尊イ。佛ト云カアルト云テ。大ツレタル妄説
ヲ弘メタモノテム。所ヲ昔カラ博識ナ僧徒モ。イクラカ
出タナレ。釈迦ガ妄説ニ目カクラニテ。此訣ヲ云々者
ハ一人モ無イテム。是ラノ委イ訣ハ。佛道ノ演説ニ申ス
ツモリテム。又天竺ヨリモ遙西ノ方ニモ。幾ラモナク
國カ有テ其國ノニモ。夫ノニ天ツ神ノ。天地ヲ始メ。人
マタ万ノ物ヲモ御造ナサレタト云フ傳ガ各々有ル。是モ
蘭書ト云テ。阿蘭陀ノ書物ヲ見ルトヨク知ルテム。
サアナント此通り。万国イヒ合セタヤウニ。天津神ノ天ニ

御座ミシテ。カヲ産ナシ給フト云フ傳カ訛リナカラモ
アルヲ考ヘ合セテ。皇國ノ古傳説ノ小縁ナラヌ訣カ
シレルテム。然レバ世ニ神クハ。甚モク多ク御シ坐セ凡
此御神ハ。其大本ニシクテ。殊サラニ尊クオハシマシ。
其産靈ノ御德申スモ更ナル御事シヤニ依テ。有カ中
ニモ仰キ奉ルベク。崇メ奉ルベキハ此神様テム。夫ユエニ
神武天皇ノ御代ニ。天皇命御自ラ鳥見ノ山中ニ
祭時ヲ御立アソバシテ。御祭ナサレ。又八柱ノ神クヲ
朝廷ノ御守神ト御祭ナサレタルガ。其第一ニ。此御産

靈神ニ柱ヲ御祭りナサレ。次ニ玉積産日神。ツキニ生産
日神。ツキニ足産日神。此外ハ大宮乃賣神。御食津
神。事代主神。以上八柱ナリ。則神祇官ノ八神ト申シ
奉ルハ是テム。此中ニモ玉積産日。生産日。足産日ノ
三柱ハ伊邪那岐大神ノ司命ノ御靈ノ神ニオハシマ
ス。別ニ委ク考ヘ置タテム。扱カホトマテニモ。産靈ノ
御神ヲ重ク御祭りナサレ。又右ニ申ス通り。唐南蛮ク
ロシボウノ國クテサヘ。此神ノ御德ヲハ第一ト崇メ
奉ル事ノ中ニ。其神國ニ生レテ。神ノ御末トアル。此

御國ノ人ノヨク辨ヘテ齋キ奉ラヌト申スハアメリ
ト云ヘハ不糾ナコトテ勿躰ナレモ勿躰ナク畏キコトノ
限リテムトハ申スモノ、世間ノ人カ押並テ古ノ学
問ヲスルモノテモ無イカラ是ハトウカト云ヘハ世間ノ
人ノ不糾シテハナク今ニテノ世ノ学者カ由ナキ
漢サヘツリ佛意ノ生サカレラニノ三惑ヒハテ、此神
ノ御徳ニ氣カツカズ不辨ヘテ此神ノ御徳ヲ世ノ
人ニトキ聞セナニダ故テム但シ其生狡意ナ学者ト
モハ夫ニレテ置テモ近クハヨツク世ノ中ノ人ノ言フコトニ

是ハ御天道様ノナサレル事レヤノ或ハ御天道様カ
此方ヲカヤウニ御生付ナサレタノト言ハスカ其天道
サマト云ハ何ノコト知ラス申サハムチヤテ申テ居ルカ
是ハ古ニ此神ノ御徳ヲ世ノ人カ能辨ヘテカノ拾遺
集ノ歌ニ君見レバ産靈神ゾ恨メシキツレナキ人ヲ何
造リケムト云タ心バヘニ申タル詞ト意ノ存ツテ平ル
ノテム何ハトモ有レ此神ノ尊アベク齋奉ルベキ謂ヲ
知ラス聞ヌ内ハソリヤレカタカナイカモウカヤウニ聞
テナル程ト思ツタナラバ速ニ其神号ヲ慙工奉ツテ齋

奉ルガ宜イテムナセト申スニ。コリヤ。教言イヤウナレ。天地ヲサヘニ御造リ遊バシ。又カノ事ヲ掌ラレル。諸ノ神等モ。此御徳ニ依テ。御出來アソバシタル程ノ事デ。天地ノ有ラニ限リトコロテハナク。未天地モ無リシ以前ヨリ。オハシ坐タルヲ以テ見レバ。譬言ヒ天地ハ何ニナルトモ。世ニ無窮ニ大坐クテ。幸へ恵ミ給ヒ。既ニ此方オタカヒ。釋迦モ孔子モ。猫モ杓子モ。皆此神ノ産靈ノ妙ナル御靈ニ因テ。生レ出タル物ジヤニ依テ。其本ヲ忘奉ラヌト云フ。道ノ誠ヲタドルノテム。漢國ノ如ク。古傳

説ノ慥ナラヌ國人テスラ孔子ナトハ罪ヲ天ニ獲レバ。祈ル所ナレト申シタカ。此意ハ。天帝スナハチ天ツ神ノ御咎メヲ獲テハ。外ニ祈ル所ガナイナセナレバ。天津神ハ諸ノ神ノ君ノ如クニ坐マス。故ニトウモナラヌト云ノ意テム。猶孔子ノ此語ノ意ハ。鬼神新論ト云フ書ヲ著シテ。具ニ論ジオイタテム。穴カシコク返ス返スモ。此御神ノ御徳ハ。朝夕ニ念レ奉ラヌヤウニ。是ハキツト心得ラレルガ宜イテム。扱又先年。伊勢平藏平負丈先生ト云フ人アリ。此人ハ天明ノ末アタリマテ。

世ニ居ラレタル人テ。有職古實ノ學問。又ハ武士道ノ
學ヒニ秀テラレタル先生テ。世ニ此家ノ學風ヲ伊勢
流ト云フ。ナセナレバ。足利ノ盛ナル時分。殿中内外ノ
古實ヲ主ラレタル伊勢伊勢守ヨリ以來連綿トシ
テ。今モ御旗本衆テ其古實ト云テ傳來シテ平ラレ、
ユエニ伊勢流ト申テム。扱コノ貞丈先生ノ申サレタル
言ニ。書物ヲ見ルニ。古ノ眼。今ノ眼トイフコトヲ心得テ。
讀ネバナラヌコトシヤ。其古ノ眼ト申スハ。古ノ書物ヲ常
ニ多ク見ナレテ。古代ノ風儀ヲヨク見知タル眼ヲ云フ。

又今ノ眼ト申スハ。今ノ世當時ノ風儀バカリヲ見馴レテ。
古代ノ風儀ヲバ一向ニ見知らヌ眼ヲ云フ。扱古ノ眼
ヲ以テ。今ノ世ノ趣キヲ見レバ。今ノ風儀カ明カニ知ル。
今ノ眼ヲ以テ。古代ノ事ヲ見ル時ハ。古代ノ事ヲモ。今
ノ風儀ノ如クニ見ナス故ニ明カナラズ。疑ハレキコトバカリ
有テ分ラヌモノシヤ。譬ヘバ古キ書物ニ。金百兩トア
ルハ。煉金ト云物ヲ秤目テ百兩ノコトナルヲ。今ノ眼ヲ以
テ見レバ。金子ノ小判百兩ノ如ク見エル。又古キ書ニハ
丈絹トアルハ。尾張國ヨリ出タル物テ。長八丈ノ絹ナル

ヲ。今ノ眼ヲ以テ見ル時ハ。八丈嶋ヨリ出ル絹ト同様ニ
思フ。コナ類ガ殊ニ數ヘ盡サレヌホト多イコトシヤト云ヒ
置レタテム。是ハ學問ノ上バカリテ無ク。今日ノ家業
ツクニモ。本ヲ知タト知ラヌトテハ。キツク慮ノ違フコ
カ有モノテム。殊ニ學問ト申スモノハ。何ノ上ニモ及ボ
シテ用ニタテ。働キヲツクル爲ノ物ユ。別シテノコト。先
古キ世ノ事ヲヨク温ネ明ラメ。高イ処ニ上ツテ平テ。夫
カラ下ヲ見下ス時ハ。今ノ世ノ低ク新シイコトハ。サシモ
骨ヲ折ラズニカルモノテム。是シヤニ依テ。唐ノ人モ。故ヲ

温ネテ新キヲ知ラバ。以テ師タルベシ。申タテム。今ノ世
オノガ身ノ上ニモ。靈キコトハ。幾ラモ有レ。常ニ馴テ平ル
カラ。其身ヲモアヤシ。思ハズ。タマサカ神異ナルコトモ
有ルト。大キニ惑ヲ生ズルコト多イテム。所ヲ古ノ學ヲ
爲ル者ハ。古ト云ヘバ。此上モナキ。天地ノ始カラ。奇シク
靈シク。妙ナル事トイヘバ。此上モ無キ。天地ヲサヘ。始メ
ラレタル神々ノ御事實ヲヨク明メルコト。故ニ。此上ノ高
イ事ハ。ナイカラ。神代ノ神ノ御上ヲ。今ノ眼ヲ以テ。今ノ
凡人ヘ引ベツレテ。疑フヤウナ。固陋ナル心ハ。起ラズ。此ヲ及

ホス時ハ何ノ上ニモ流通ルテトカク何ノ学ビ何ノ業
テモクツト高い処ヲ爲テオクカ宜テム譬ハ本歌ト
云テ眞ノ歌ヲ詠モノハ連歌ハナシノ苦モナクテモ連
歌ヲヨクスル人ハ發句カ何ノ苦モ無ク出來ルヲ見テ
モトカク人ハ高いヲ覺ルガヨイテム又貞丈先生ノ
言レミレタニハ書物ヲ讀テ其文ノ義ヲトクニ唯一方
ニバカリ偏テ外ニ通ジ涉ラヌハ偏見ト申テ片寄タ
書物ノ見ヤウト云モノジヤ。マタ文ノ義ヲ解ニ轉用
旁通ト云テ此事ニモ當リ。彼事ニモ當テ滞リノナイ

カ活見ト申テ眼ヲ活シテ書物ヲ見ルト申スモノテム
又偏見ト片寄タ見ヤウノ人ハ憤悻ト云テ事ヲ開
キ發明スルヤウナクハ無ク活見ト云テ眼ヲ活シテ
書物ヲ見ル者ハ事ヲ開キ發明スル憤悻ノ勢カヒカアル
ト申サレタルガ是以テ學問ノ上バカリテハナイ。諸事
ニ行渡ルテ今ノ世ニ漢學スル人々又漢意ノ狹キ
愚癡ノ付タル人ナドハ多ク今ノ眼ヲ以テ古ヘヲ思ッ
タリ。又カレヲ考ルニ是ヲ以テスルト云ヤウナ活見ノ人
モ少イテムトウソサウ無イヤウニ致レタイ物テム。

扱御國ノ言ニ凡テ加美ト申スハ古ノ意ヲ尋レバ古ノ
御典ニ見エタル天地ノ諸ノ神等ヲ始メ參ラセ其ヲ
祀リ奉ル社ニミシ坐ス御靈ヲモ申レ又人ハ更ニモ云
ハズ鳥獸草木ノ類海山ナニ下其外何ニモアレ尋常
ナラス殊レタル徳ガ有テ畏ミ恐ルベキ物ヲ加美ト申ガ
古ノサニテ其スグレタルト云ハ尊キヲ善クイサラシキ
事ナドノ殊タルバカリヲ云テハ無ク悪キモノ奇キ物ナド
モ世ニ殊レテ畏キヲバ神ト申ステム扱人ノ中ノ神ハ先
挂クモ畏キ天皇御代ニミナ神ニ坐ニスヲハ申スモ更

ナルコ其ハ万葉ヲ初トシテ古クヨリ歌ニモ遠ツ神トモ
稱シテ凡人トハ遙ニ遠ク尊ク畏クオハシ坐ガ故テム斯
テ次クニモ神ナル人古モ今モ有ルヲテ又天ノ下ニ廣ク
流通シタルトテハ無クトモ一國一郡一村一家ノ内ニ付
テ其程ニ神ナル人ハ有テテム扱神代ノ神々々モ
多クハ其代ノ人テ其代ノ人ハ皆神ニシク有タル故ニ
神代トハ申ステム又人ナラヌ物テハ雷ハ常ニモ鳴神ト
申セバ本ヨリ神ナルト論ナク又龍天狗狐ナドノ類モ
スグレテ奇異ク畏キ物ニ是モ神テム又虎ヲモ狼

ヲモ神ト申タルヲ日本紀万葉集ナドニ見エマタ伊邪
那岐大神ハ桃子ニ大加牟豆美命ト申ス名ヲ賜ハリ
マタ御頸ノ玉ヲ御倉板舉之神ト申タル類ヒモ有ル又
神代紀ヤ俗ニ中臣祓ト覺テ居ル大祓詞ニモアル通リ
磐根木株艸葉ナドガ神代ニ物言タルヲガアル是モ
神テム扱マタ海山ナドヲ神ト云タルヲモ多イ夫ハ其
御靈ノ神ヲ云テハ無イ直千ニ其海ヲモ山ヲモ指テ
神ト申タモノテ是ラモ山ハ高ク聳エ海ハ深ク渡ルニ
モ越ニモ甚カレコキ物ナルガ故ニ神ト申テムソモク神ト

申ス古ヘノ意ヲ尋ルニ斯ノ如ク種々サマクテ貴キモ
アリ賤キモアリ強モ有リ弱モアリ善モ有リ惡キモ
有テ心モ行モ其サマクニ隨テトリクナルヲテソノ貧
キ賤キニモ段々ガ有テ最モ卑キ神ノ中ニハ徳カ少
クテ凡人ニモ負ルサヘ有リ其ハ彼狐ナドハ其異キ
事ヲ爲スヲハイカニ賢ク巧ナル人トイヘ凡テ挂テモ及
ベキヲテハナク實ニ神テム然レ凡又常ニ狗ナトニサヘ
制セラレルヤウナ微キ獸テムサヤウノ類ノ一向イヤ
レキ神ノ上ヲノ三思比ヘテ何ナル神トイヘ凡理ヲ以テ

向フニハ。恐ルベキヲハ無イト思フ人モ世ニハ多ク有
トモ是ラハ尊イト卑イト其威カノ大キニ相違アル
コヲ辨ヘ又非事デム扱カクノ如ノ訣シヤニ依テ神ト
申スモノハトニト一様ニ定メテハ申ガタイ物デム然ル
ヲ世ノ人カ神ヲバ凡テ外國ニ謂ユル佛菩薩聖人ナ
ド、同類ノ物ノ如ク心得テ。當然ノ理ヲ以テ神ノ上ヲ
推ウトスルハ甚レキヒカ事テ悪ク邪ナル神ハ何事モ
理ニ違ツタ所爲ノミ多ク。又善キ神シヤト申テモ。其
ホドクニ從テ。正レキ理ノ僭テハナク。事ニフレテ。怒リ

給フ時ナドハ御荒ヒナサル、事モ有リ夫ハ崇神天
皇ノ御代ニ三輪ノ大物主神ノ疫病ヲ御ハヤラシナ
サレタルナドヲ思フガ宜イデム。悪キ神トテモ悦ニテ
御心ノ御ナゴミ遊バシタル時ハ幸ヒ惠ミ給ハルコトノ
絶テ無イト申ステモ有ルマイデム。又人ノ上ニトリ
テハ其レワサノ差當テハ悪ク思ハレルコトモ誠ニハ善
ク。善イト思ハレルコトモ實ニハ悪キ理ノ有ルナドモ有
ラウテム。凡テ人ノ智ハ限りカ有テ。眞ノ理ハ得知レ
ヌ物シヤニ依テトニカクニ神ノ御上ハ猥リニ測リ云フ

へキ物テハナイテ。況テ善モ悪イモ。イト尊ク殊レ
タル神等ノ御上ニ至テハ。最モく靈ク奇ク妙クニ
坐マズニ依テ。更ニ人ノ小キ智慧ヲ以テ。其理ナドハ
千重ノ一重モ。測リ知ベキコトハナイ。唯ソノ尊キヲ
尊ヒカレコキヲ畏ニ。恐ルベキヲ恐レテ有ヘキモノ
テム。扱ソノ御國ノ古ヘ加美ト申ハ。右ノ趣テ有ル
所ヲ遙ニ後ノ御代ニ。唐ノ文字カ渡リ來テ。其加
美ト云フ言ヘ。唐ノ神ノ字ヲ元々モノテ。是ハ能當
テヲルト申スウチニ。七八分ハ當ツテ。二三分ハアタラヌ

訣カアル。其ハミツ御國テ加美ト申ハ。キツト其實物ヲ
サレテノミ申テ。紛ハレイコトハナイ。然ルヲ唐テ神ノ字ノ
用ヒ様ハ。實物ノ加美ヲ指テ申バカリテナク。唯其物
ヲ稱テ靈異ト云ヤウナ心バヘニモ用テ。譬ヘハ神劍ト
云時ハ。アヤレキ劍ト云フコト。神龜トイヘハ。アヤレイ龜ト
イフコトニナル。御國テ神ト申ス時ハ。必實物ヲ指テ申ス
故ニ。是ヲノ違ヒガ有ル。但シ又一ツ。御國語ニ神何ト神ノ
字ヲ上ニ付テ言フコトカアル。其ハ神事神ハカリ。神伊邪
那岐神ナドノ類何レモ。美テ申ス謂ユル尊稱テム。尤是ハ。

カミトハ言ハス。カムト唱ヘルテム。一躰御國ハ言語ノ國
テ。元ハ神字ノ假字ノ三有テ。漢字ノ如キ義理アル字ハ
無ク。詞ヲノミムネト傳ヘタル処ヘ。漢字ガ渡テ。ソノ漢
字ヲ。御國ノ言語ヘ當タル故ニ。義理ノ分リ易イコモ
テキタナレ。又カレコレ打合ハヌ字モ多クアルテム。其ハ
段々聞レルウチニ追々合点ノユク。然ルヲ世ノ常ノ
學者等ガ斯ヤウノ訣ヲ辨ヘス。漢字ノ義理ニハカリ
スガリ泥ニテ。此方ノ御事實ヲ説クニ依テ。誤リタ
ルコモ。又夥レイデム。

